

お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわがっちゃらブックレット

OSANPO

～3歩目～





■さばえ市民主役フォーラム…4 p



■鯖江市連合青年団…6 p



■鯖江市母子寡婦福祉連合会…8 p



■鯖江 越中おわらを楽しむ会…10 p



■アールトクラブ…14 p



■河和田自然に親しむ会…16 p



■さばえNPOサポートはこんな活動をしています!!…12 p



■ZOOっとNet 西山動物園友の会…18 p



■豊地区 市民まちづくり応援団養成講座…20 p



■編集後記座談会…22 p

目次

巻頭特集「さばえ市民主役フォーラム」	4 p - 5 p
団体紹介①「鯖江市連合青年団」	6 p - 7 p
団体紹介②「鯖江市母子寡婦福祉連合会」	8 p - 9 p
団体紹介③「鯖江 越中おわらを楽しむ会」	10 p - 11 p
さばえNPOサポート事業紹介 「こんな活動をしています!!」2013年版	12 p - 13 p
団体紹介④「アールトクラブ」	14 p - 15 p
団体紹介⑤「河和田自然に親しむ会」	16 p - 17 p
団体紹介⑥「ZOOっとNet 西山動物園友の会」	18 p - 19 p
巻末特集「豊地区 市民まちづくり応援団 養成講座」	20 p - 21 p
編集後記座談会	22 p - 23 p

『OSANPO』について

■ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。
■タイトルに隠れた「NPO」(非営利で活動する組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…



◆巻頭特集◆

「公開」と「共有」で築く 市民主役のまちを夢見て。

さばえ市民主役フォーラム

主催：鯖江市 企画・運営：(特選)さばえNPOサポート(提案型市民主役事業)
日時：平成25年11月17日(日)13時30分 場所：郷陽会館



「さばえもみじまつり」が行われていた紅葉の西山公園のお隣、郷陽会館で「さばえ市民主役フォーラム」が開催されました。市民が「主役」であることをテーマに、様々な視点で展開された、その内容をレポートします。

◀牧野市長は、講演とコメントーターを担当。

▼コーディネーターの松枝氏。多様な視点での、切れ味良い進行はさすが！



▲活発な発言を交わしたパネラーの4氏。左から、齋藤氏、掃部氏、荒木氏、揚原氏。

今回は、コーディネーターとして福井テレビの松枝隆一氏を迎え、行政・市民それぞれの視点から、鯖江の現状を考える企画。

「市民主役条例」についての牧野市長の講演の後、ステージはパネルディスカッションへと移りました。

市長とともに議論を進めるパネラーは、鯖江市区長会連合会長の齋藤哲氏、NPO法人Comfortさばえ理事長の掃部哲雄氏、腕de緑代表の荒木真弓氏、(公社)鯖江青年会議所顧問の揚原弘氏の4人。それぞれ、地域や行政と関わりながら、市民の視点で多彩な活動をしているメンバーです。

時には会場の参加者にも意見を求めながら、市民と行政のギャップや意識の違いによる温度差、市民主役の目玉とも言える「提案型市民主役事業」制度の予算についてまでやり取りが続きます。

ステージ上での発言にも、「市民主役」に

対する距離感や理解の違いなどが現れ、それはある意味、鯖江の縮図とも言えそうです。

フォーラム後半、公共の情報を公開し、市民と共有する「オープンデータ」の先駆けとして、「街灯管理アプリ」の開発に携わった松田氏、仲野氏が登場。今後のネット上での公共情報の共有の可能性を語りました。

牧野市長も、市民と行政の情報共有が、将来の「市民主役」のまちづくりに重要な役割を果たすことを期待しているとのこと。

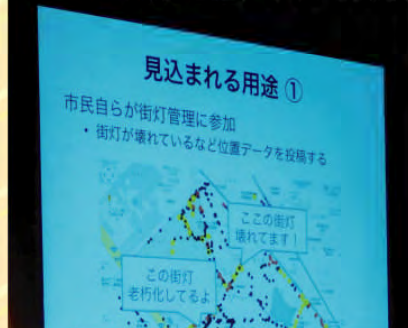
そんな中、パネラーの齋藤氏の発言が印象に残りました。

「インターネットでアプリなどの便利なものも利用しながら、一方で、市民同士、お互いの顔が見える地域社会でありたいですね。」方法やツールは様々でも、最後は、「オープンマインド」な人間関係が、市民主役の地域づくりの大切な基盤となってくれることでしょう。



▲入り口から会場までには、市民主役事業・市民活動団体のパネルギャラリーが続く。

▼「街灯管理アプリ」の説明



▲「街灯管理アプリ」の開発者、松田氏(右)と、越前市の「ゴミ分別アプリ」を開発した仲野氏(左)。



青年よ!

大志を抱け!



鯖艦フェスティバル
 脱出ゲーム 10時半から 1階和室
 脱出ゲーム 10時半から 13時から 軽運動室
 屋台村 体育館にて
 展示コーナーにて 各青年団紹介あり

鯖江市連合青年団

まちづくり 教育 文化

「今どきの若者は…」昔も今もよく聞かれるこの言葉。「鯖江市連合青年団」に集う「今どきの若者は、いったいどんなことを思っているのでしょうか。」

『我ら鯖江市連合青年団!』

鯖江各地のイベントで大活躍中の鯖江市連合青年団。つい数年前までは、団員の減少に伴って、活動も下降線を辿っていました。しかし、今や団員も着実に増え、活動範囲が広がるのにしたがって、知名度も増してきました。最近の活動を挙げると、自主事業としては、

- 鯖艦フェスティバルの開催
 - 福井県青年交流事業
 - 鯖江市青年問題研究集会
- 等々、まだまだたくさん。事業がありすぎて、紙面に書き切れないほどで市内だけではなく、県内各地でも活動を行っています。みなさんも、どこかで連合青年団の名前を見聞きしているではありませんか?

『青年団の魅力とは?』

青年団は、その地域に住んでいる概ね35歳までの若者なら、誰でも入団できる組織で、地元のおまつりや清掃活動、子ども達とのふれあいなど地域のために様々な活動を繰り広げています。



▲「アリス」の世界観を借りて、オリジナルで創り上げたリアル脱出ゲーム『鏡の国からのSOS』
 画像提供: 鯖江市連合青年団



答えはなに? ヒントは「ウサギの持ち物」▲



▲団長の増田恭兵さん

『みんな! つながろう!』
 「...とは言え、自然発生的に青年団活動が盛り上がってきたわけではありません。」

私が入団した頃は、地区の青年団も3つしかなく、活動もあまりありませんでした。知人などに声を掛けて、地区の青年団を復活させたり、新しく作ったりしてきました。

市連(鯖江市壮年グループ連絡協議会)や市の体育協会、公民館など様々な団体の要請に応え、いろいろな事業のお手伝いもしてきました。その地道な活動を通して、団員も増え認知度も上がってきたのだと思います。」

この、活動の盛り上がりについて、「若者の意識がここ数年で変わってきた訳ではないと思います。いろいろな場所でのつながりができることによって、自分たちがやれることや活躍できる場と続けてくれました。」



▲事務局長の渡部(わたなべ)裕太さん

「自分たちの住んでいるまちを、自分の手で盛り上げたい、良くしたい」と思っている若者は、まだまだいるはず。事業を通して若者を地域のリーダーとして育て、交流しつながりを増やすことでさらに輪を広げ、次の若者を育てていく...その為にも、鯖江のみならずにもっと青年団のことを知って欲しいと思います。」と、熱く語ってくれました。

『みんな! 楽しもう!』

「私たちは、たくさんの方々の事業・イベントを行っています。決して自己満足に終わることなく、つながる相手をとっても大事にしています。イベントを通じて、自分たちが楽しむだけでなく、まわりの人たちと一緒に『楽しい』を作っていくことを重視しています。」とは、事務局長の渡部さん。

これまでにもこんな活動もしています

- ◆鯖艦フェスティバル(2010~)
- ◆各イベントへの出店(ご縁市・フードフェスタなど)
- ◆県内外青年団との交流(滋賀県ドラゴンカー大会・池田町インディアカ大会など)
- ◆保育園との交流(あすなろキャンプ・もちつき・サンタ宅配便など)
- ◆各種イベント協力(鯖江市成人式・やっしきまつり・ホーム祭・鯖江市食育フェア・やきとり合衆国・スノーフェスタなど多数)



▲YouTubeで配信中の『SABA-KAN.TV』活動報告からイベント告知まで、これも重要な広報戦略! ぜひ一度ご覧あれ☆
 画像提供: 鯖江市連合青年団

基本データ

〒916-0022 鯖江市水落町2-24-31
 鯖江青年会館内

http://yaplog.jp/sabacan/
 sabae_seinendan@yahoo.co.jp

正会員募集中!

- 代表者...増田 恭兵
- 活動開始...1955年2月13日
- 正会員数...約30名(2013年12月現在)
- 賛助会員...なし

◎活動目的

18才~35才の若者を中心に、様々な活動で地域を盛り上げていくことを目的としている団体です。

心も家庭も豊かでありたいから



▲平成25年9月の「ひとり親家庭ふれあいのつどい」多くの協力団体さんの引率で、日帰り旅行に出発!

さばえし ぼし が ぶ
**鯖江市母子寡婦
 福祉連合会**
 ぶくし れん ごう かい

教育 福祉

『寡婦』とは、死別や離婚などによって配偶者と別れた女性や、その状態で子どもを育てた女性のこと。太平洋戦争の後、夫を失った母子の福祉向上をひとつの目的に作られたこの会ですが、時代に合わせ、その活動も少しずつ変化しているようにも。

『切り拓いてきた歴史』

鯖江市母子寡婦福祉連合会は、いわゆる母子家庭などの、同じ境遇の方々が会員として活動している会で、仲間づくりと研修や交流、福祉・生活環境の向上などを目的としています。太平洋戦争の傷がまだ癒えきらない昭和25年、戦争により夫を失った妻たちが集まり設立した未亡人会が前身で、昭和43年に現在の名前へと改称し、今に続いています。

昭和27年には全国組織も出来上がり、それが現在の全国母子寡婦福祉団体協議会です。

「立派な先輩がたが、これまでの道を切り拓いてくださいましたけど、今の時代には、また今ならではの課題もあるんですよ。」

加藤会長の、上品な中にも一本筋の通った物腰からは、人生の『気概』といえるような何かを感じました。

『母子・若年寡婦・寡婦』

会は、次の3つの部会から構成されています。

- ・母子部(20歳未満の子供のいる、ひとり親の家庭)
- ・若年寡婦部(子供が全員20歳以上の、65歳までのひとり親)
- ・寡婦部(65歳代以上のひとり親)

設立当初と違い、現在では会員の多くが離婚による寡婦やひとり親家庭だとのことですが、時代や世代にかかわらず共通しているのは、皆が社会的に厳しい状況でも精一杯頑張っていることです。

「大変なのは自分だけじゃないっていう仲間意識が、ひとりひとりの支えになってきたし、会員同士で活動することで、自分たちの視野や世界も広がるんですよ。」

部会は、行事の内容によって別々に活動を行うこともあります。3部会が一緒になって活動することもありません。それは、部会間での連携が、会全体にとって大切だとの考えからです。

また、意識を共有し、つながることは、会員の間だけでなく、社会的なパワーにもなります。母子家庭医療費助成や児童扶養手当などの福祉手当も、行政との関わりの中で、先達たちが勝ち取ってきた成果でもありました。

『たくさんさんの協力団体』

会の活動は実に多彩です。様々な制度の研修会をはじめ、就業や生活に役立つスキルアップのための各種講座など、一年を通じて行われています。

もちろん、子どもたちも参加する、交流・レクリエーション事業も盛りだくさん。親睦旅行、親子ふれあいの集い、バザー、入学卒業を祝う会、映画鑑賞など、忙しい生活の中で一服の清涼剤として、貴重な時間を提供してくれます。

「楽しい経験を共有することが、子どもたちにとっても、人生での大きな財産になってくれると思うんです。」

そんな目的に賛同し、行政や企業、社会貢献団体さんなどが、事業に協力してくれるそうです。



▲会の足跡を語る数々の記念誌

『孤立する人生なんてもったいない』

現在、会長をはじめ、5人ほどが中

心となって運営をしています。近年では行事の増加などの理由で、役員の負担が重くなってきているのが悩みのひとつ。

そのためにも、会を支える新しいメンバーの参加に期待したいところ。ただ、会員数は、高齢化などの影響もあり減少傾向です。

「若い親子さんたちとも、もっとつながってほしい」というご家庭も増えていて、仲間を増やすのにも苦労するところがあります。」

核家族化から離婚率の上昇、そしてライフスタイルの多様化という言葉による、ひとり親家庭の孤立化にも、会長は心配そうな表情を浮かべます。

『自分の価値観だけで生きること』や『人に批判されないこと』を大事に思うあまり、他人とつながり励まし合いたい、一緒に活動することの素晴らしさを、どこかで捨ててしまっている部分があるのかも……

もしかすると、それは、ひとり親家庭にかかわらず、どんな人生を送る人にも当てはまりそうな話です。

『心の貧困に』

「最近の社会は、家庭内での暴力や虐待など、親や家族としてのモラルが問われるようになってきたと思うんです。」



▲実は加藤会長、蘭栽培の名手! 注いだ愛情で、可憐な花を咲かせていました
 写真提供: 鯖江市母子寡婦福祉連合会

〒916-0061
 鯖江市平井町62-65
 TEL: 0778-62-1283

基本
 データ
 会員募集中!

- 代表者…加藤 秋子
- 活動開始…1950年
- 会員数…約180名(2013年12月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
 研修、レクリエーション、交流などの事業を通じ、会員の個々の資質を高め、福祉向上に務めています。

これまでにも
 いろんな活動もしています

- ◆総会
- ◆つつじまつりバザー出店
- ◆三部研修
- ◆福祉展示即売会
- ◆ひとり親家庭ふれあいのつどい
- ◆寡婦のつどい
- ◆女性講座
- ◆映画鑑賞会
- ◆ひとり親家庭入学卒業を祝う会
- ◆その他、各イベントでのバザー出店など

おわらの風を

さばえで。



夢みらい館・さばえ「お月見会」での、幻想的な踊り風景

鯖江 越中おわらを楽しむ会

まちづくり 教育 福祉 文化

富山市八尾町にて毎年9月1日から3日にかけて開催される『おわら風の盆』。

多くの観光客で賑わうこのお祭りで踊られる、美しい『越中おわら節』を鯖江で楽しんでいる人たちがいます。

『おわらを楽しむ会って?』

なぜ鯖江で『おわら』なのか、代表の福岡賢二さんにお話を伺いました。
『平成9年に『越中おわら節』の踊りに出会い、その魅力をみんなに知ってもらいたいとの思いから、平成20年11月に立ち上げました。

今では、会員も、広く福井県内から集まって大幅に増え、各パートに分かれて練習を行っています。『そんな福岡さんも、最初に伝統の踊りを教えてもらうまでには、時間がかかったそうです。』

『会の設立前、八尾町に行って地元の保存会の方に踊りを習おうとしましたが、初めは誰も取り合ってくれず苦労しました。』

でも、何度も足を運んで熱意が通じたのか、個人的に教えてくれるようになりました。

その先生から、『踊りを学ぶだけでなく、おわらの歴史も学んで欲しい』と言われ、町を歩いていっている人々から『おわら』のことを教えてもらいました。

『風の盆』の時だけではなく、実際

に土地の人と触れあっていくことでわかることも多かったです。
町の風情や美しさ、人々のおもてなしの心、優しさ親切さにとても感動しました。』

『越中おわら節とは』

『おわら風の盆』の踊りの原型は、3百年ほど前から伝わる伝統的なものです。ただ、人々を魅了してやまない今の姿になったのは昭和になってからのこと。

越中おわら節自体は1つの曲ですが、踊りは大きく分けて『豊年踊り』『男子踊り』『女子踊り』の3通りあり、それらをいろいろ組み合わせさせて魅せる踊りだそうです。

『おわら』の語源にも諸説があり、『大きい藁(わら)』という意味と『大笑い』からきているという説が有力だとか。

大きい藁とは、大きい藁の山＝藁が沢山取れる、つまり豊作であることを意味します。また、昔から藁は日本人の生活に不可欠な資源、いわば宝のようなもので、それ自体が五穀豊穡の象徴でした。

また同じ3百年ほど前、八尾の町でとてもいいことがあり、町の人々が大笑いをしたというのが『大笑い』説の起源とも言われています。

立春から数えて210日目に『風の盆』が開催されます。

ちょうど台風季節なので、大風や大水での被害が起こらないようにという願いが込められているとのこと。

また、『風鎮め』を祈願する一方で、昔からこの土地で盛んだった製糸産業には風が不可欠だったため、良い風を願う気持ちも込められているそうです。

『おわらの魅力』

八尾町は元々人口5千人弱の小さな町ですが、毎年『風の盆』が開催される時期には、なんと25万人もの観光客が訪れます。なぜ、それだけ人気があるのでしょうか。

『おわら』には素材があるんです。日本各地の民謡は、鐘や太鼓など、賑やかで派手なものが多いです。そういうものも、もちろんいいのですが、胡弓の音色を取り入れた越中おわら節のような静かな民謡は、特別、心に残るんですね。それに八尾町の自然や町並みも素晴らしいので、おわらの民謡に実によく合うんです。

時折、身振り手振りを交えながら、にっこりと話す福岡さんを見ていると、ぜひ行ってみたいくなりました。

「ただ『風の盆』の踊りは、どれも難しく、入会してもなかなか続いてくれない会員さんがいるのが悩みです。習った先生に、『八尾の人は子供の頃から踊っているけど、鯖江の人が人前で踊れるようになるには、(比較的簡単な)豊年踊りでさえ10年ぐらいかかるよ』と言われました。おかげさまで、最近ではようやく踊れるようになってきて、県内各地からお呼びがかかるようになってきました。」

その表情からは、自分たちの愛する『風の盆』を、人々とともに楽しめる嬉しさが溢れています。

「でも私たちは、踊りを見てもらうのだけが目的ではないんですね。あくまでも、自分たちで踊り、それを楽しむことが大切なんです。」

民謡とは日本人の心です。民謡は生活の唄であり、嬉しいことがあった時の祝いの唄、作業の唄なのです。その中でも、特におわら節は、心に染みる素晴らしい唄と踊りですから、とっても楽しいのです。」と目を細める福岡さん。

今後の夢は?とお聞きすると、「お世話になった越中おわら保存会の人たちを鯖江に呼んで、みんなと一緒に踊りたいですね。」

また、いつの日か鯖江の町並みを舞台に、心に染みる『おわら』をはじめ、県内外の民謡愛好団体が踊りながら練り歩く『町流し』を実現できたらと思っています。鯖江の町なかで各地の民



謡を楽しめたらいいですね。」
民謡と日本の文化を心から愛してやまない福岡さん。その夢は、これからもまだまだ広がっていきそうです。



▲各地の素晴らしい民謡や踊りを、日本全体の文化として、鯖江でも全国でも楽しめるようにしたいと話す福岡さん

最後に衣装を着ていただきました。やっぱり、カッコイイ!

これまでにならぬ活動もつくりまわす

- ◆ サンドーム福井(イベントホール)での越中おわら踊り講習会(2010)
- ◆ 丹南産業フェアに特別出演(2010)
- ◆ その他、各イベントでの出演多数
 - ・ さばえ菜花まつり
 - ・ さばえつつじまつり
 - ・ ふるさと鯖江の日
 - ・ ボランティアまつり
 - ・ 各地区公民館、敬老会、福祉施設等
 - ・ 福井市、越前市、坂井市の地域イベント...など

〒916-0061 鯖江市平井町41-1-12
TEL:080-1955-3749

基本1ヶ月 正会員募集中!

- 代表者...福岡 賢二
- 活動開始...2008年11月1日
- 正会員数...58名(2013年12月現在)
- 賛助会員...なし

ボランティア募集中!

◎活動目的
健康と生きがいのため、多くの人と『越中おわら風の盆』の魅力を共有し、見て、踊って、日本文化を楽しむことが目的です。



【2013. 10. 4(金)】
〈広報講座「パネル展示で魅せる!!」〉



【2013. 8. 27(火)/10. 11(金)/11. 22(金)】
〈大野市市民協働に関する職員研修〉
を受託、開催。



▲【2013. 8. 23(金)~25(日)】
〈青少年育成事業「夏のみのらい塾」〉
南越前町の瀬戸で開催。
11月には「秋のみのらい塾」も実施しました。



▲【2013. 5. 25(土) / 8. 24(土)他】
〈NPO無料相談会〉



▲【2013. 6. 29(土)】 ざつ神さま
〈さばえ環境フェア2013出展〉
「ざつ神さま」も本格デビュー!



【2013. 9. 8(日)】
〈さばえコン〉
今年も、まちの活性化と
出会いをご提供☆



▼【2013. 10. 26(土)】
〈アクティブシニアとNPOのマッチング会〉
※福井県からの受託事業



▲【2013. 11. 15(金)~】(全4回)
〈金沢大学での地域連携セミナー〉
鯖江市市民協働課と協力して、協働施策のセミナー講師を担当。

▼【2013. 11. 8(金)】
〈東陽中総合学習への対応〉



▲【2013. 10. 16(水)/17(木)】
〈中央中職場体験受け入れ〉



▲【2013. 10. 17(木)】
〈小浜市「市民協働」視察〉



▲【2013. 12. 15(日)】
〈石川県野々市市「市民協働」視察〉

▲【2013. 12. 7(土)】

恒例となった婚活パーティ。NPOならではの暖かい雰囲気好評です。



恋愛工房
クリスマスパーティー2013
12月7日(土)19:00~
会場:キャンドル (鯖江市市民協働センター)
参加費:男性~5000円(女性~3000円)
※別途にはお食事代も含まれます。(2013年12月7日)
※別途会場、服装制とあります。

お申込み・お問合せ(特設)はさばえNPOサポート
076-232-0204 鯖江市市民協働センター
076-232-0205 鯖江市市民協働センター
076-232-0206 鯖江市市民協働センター
http://sabaenpo.or.jp/ 076-232-0203

さばえNPOサポートは こんな活動をしています!!

『OSANPO』を発行している「さばえNPOサポート」は今年も色々な活動をしてきました。その記録を、写真でご紹介します。



【2013. 7. 28(日)/9. 1(日)/10. 27(日)】(全3回)
〈SAVE JAPAN プロジェクト2013〉
(株)損害保険ジャパン・日本興亜損保(株)出資による全国の稀少動物保護事業。
越前市の「治左川とトミヨを守る会」「日野川流域交流会」「認定NPO法人日本NPOセンター」とともに、地元・上真柄町の皆様のご協力のもと、トミヨとバイカモの保護のために取り組みました。



▼【2013. 4. 14(日)~】
〈ハッピーエコタウンプロジェクト〉
「誠市」「ご縁市」をはじめ、連携イベントなどに、公共交通機関や自転車に参加すると、さばえ型地域通貨「ハッピー」がもらえる、CO2削減を目的とした事業。
7月~12月は「雑紙」の回収も実施。



▲【2013. 6. 12(水)/10. 4(金)】
〈市民活動団体連絡会〉
NPO、市民活動団体さんの連携、情報共有のための会合。
その他、7. 12(金)には「指定管理受託団体連絡会」も開催しました。



▲【2013. 4. 26(金)】
〈さばえNPOサポート通常総会〉

你好！

鯖江的小孩们！

（いつも和気あいあい！鯖江の子どもたち！）



▲いつも和気あいあい、笑顔の絶えない教室の様子

アールトンクラブ

教育 文化

意外と関わりのある鯖江と中国。その中国の文化や習慣を、中国語を学びながら、鯖江の子どもたちに知ってもらいたい。

—そんなお話を、アールトンクラブの服部さんにお聞きしました。

『ユニコアールトン？』

—中国語で『児童』を意味する『アールトン』。小学生の子ども達を対象に、中国語を教えている同クラブ発足のきっかけは、代表である服部さんの呼びかけからでした。

図書館だった建物が、平成11年に市民活動交流センターへ。しかし、当初は図書館と間違えて入ってくる人や、覗いてみるけれども中に入らない人が多く、うまく活用されていなかったとのこと。

そこで、服部さんも関わっていた、子どもたちの健全育成を目的とするピッコロの会と鯖江市国際交流協会の協力もあり、アールトンクラブの立ち上げとなりました。

—鯖江市市民活動交流センターを知ってもらいたいという思いからスタートしたアールトンクラブ。どうして中国語講座だったのでしょうか。

「実は、鯖江に帰ってくる前に台湾の学習塾で働いていたことがあるんです。

自分が学んできた中国語を、遊びながら分かってもらえる場を作りたい。

また、当時国際交流協会の当番としてセンターに来ていた中国人留学生が、ポツンと寂しそうにしている姿を見て、一緒に子どもたちと触れ合える場を作りたいと思ったんです。」

言葉を学ぶことが好きだった学生時代、海外で経験したエピソード、子どもたちに教える楽しさを知った経緯を笑顔で語る姿はとてもイキイキ。お話をしていると、優しい人柄が伝わってきます。

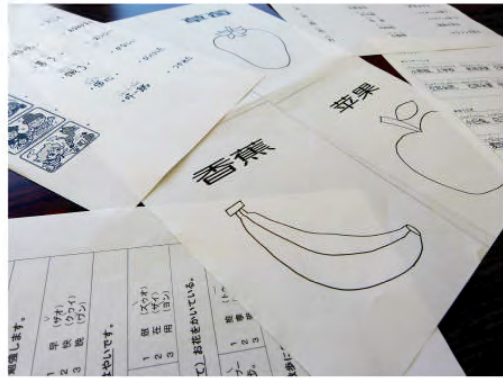
『楽しく学ぼう！』

—『遊んで覚える中国語』がキャッチフレーズの同クラブ。具体的には、どのような内容なのでしょうか。

「発音練習は大切にしてはいますが、漢字を覚えてもらおうとは思っていません。手作りのプリントや絵本を使ったり、フルーツバスケットやあっち向いてホイ、じゃんけんを中国語バージョンでしてみたり。『幸せなら手をたたこう』を中国語で歌うことや、イベントに向けて劇の練習をすることも

ありますよ。」

子どもたちが楽しく通ってくれるように、様々な工夫をされている様子。時には、テレビのバラエティ番組を参考にゲームを考えることもあるそう。また、『言葉の背景には文化がある』という考えから、中国人の方や高校のALT(外国語指導助手)の先生を招いて、中国のお正月用の切り絵体験、一緒に水餃子作りをする機会などを設け、子どもたちにも大好評とのお話。



▲工夫を凝らした、楽しい教材

『元気のミナモト』

—この活動を通して、喜びを感じるのどのような時でしょうか。活動を続けていく秘訣はありますか。

「発足当初から、敢えて皆から見えないオープンスペースで講座を開いています。自主学習をしながら興味を示して



▲餃子づくりで大盛り上がり☆ 写真提供：アールトンクラブ

くれる高校生もいます。

また、このクラブを卒業した子どもたちが、中学生や高校生になってから、このセンターを思い出して自主学習に來たり、クラブを懐かしんで立ち寄ってくれることが嬉しいですね。」

主に1人で活動を進めてきた中で、子どもたちがくれるエネルギーが大きな支えとなり元気をもらえるとのこと。卒業生の中には、将来中国に行きたいと夢を話す子もおり、そのひとつひとつがモチベーションアップに繋がっているそう。

英語教室の指導方法等も参考に毎回試行錯誤の繰り返しなんですと語る姿には、教えることの難しさと、そこから得られるやりがいを感じられます。

『羽ばたけ！子どもたち！』

—今後の目標と子どもたちへの思いを聞かせてください。

「こんなことを言うのがっかりさせちゃうかもしれませんが、クラブをもっと大きく、もっと多くの人にとっては思っていないんです(笑)。

自分ができる範囲で、今ある繋がりを大切に、中国語と触れ合うきっかけとしてこの場を提供していければと思っています。」

活動を続けていく中で、たくさんの方のご縁が生まれ、自己実現をさせて頂いていると語る服部さん。

「子どもたちは、将来いろんなところに出かけて行く機会があると思います。世界に羽ばたけ！...とまでは言わないけれど、自分とは異なる言葉や話す人に違和感・拒否感を持たずに話ができる、いろんなことを受け入れられる人になってもらえるといいなあと思っと思っています。」

単に中国語を覚えてほしいというのではなく、色々な人と触れ合える場所、遊びながら外国語への抵抗感がなくなる場所にしていきたいと語る姿には、子どもたちの背中をそっと押してあげてほしい思いが溢れていました。

ここから飛び出していった子どもたちは、きっと素晴らしい活躍をしてくれる。そんな気持ちにさせてくれる素敵なクラブでした。



▲七夕には切り紙体験も中国の先生と一緒に笑顔の一枚写真提供：アールトンクラブ

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市市民活動交流センター内
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058

基本
正会員募集中!
ボランティア募集中!

●代表者…服部 聡美
●活動開始…1999年
●正会員数…5名(2013年12月現在)
●賛助会員…なし

◎活動目的
中国語を学ぶことを通じて、子どもたちに中国の文化や習慣について知ってもらうことを目的としています。



▲我らが「オシドリ夫婦」のスナッフショット
美しい！ 写真提供：河和田自然に親しむ会



◀『SATOYAMA国際会議 in ぶくい』にて
各国参加者を河和田の里山にご案内
写真提供：河和田自然に親しむ会

河和田自然に親しむ会

まちづくり 環境 教育 文化

9月行われたSATOYAMA国際会議2013 in ぶくい。そこで発表をしたのが「河和田自然に親しむ会」の谷口真栄さん。鯖江の里山のひとつである河和田での活動を全世界に発信しました。

『人と自然が ともに関わる「里山」』

近年、「里山(satoyama)」というキーワードが自然環境保護における重要な指標の一つになってきました。「里山」は放置された素の自然ではなく、人家や田畑などと隣接し、人が出入りすることで手入れ・管理された山を指しますが、最近では、より一体的に、山と人の住むエリア全体をイメージすることもあるようです。多くの種類の小型哺乳類・爬虫類・両生類・昆虫類や野鳥などが棲息し、独自の生態系を形成しているのが特徴で、人と自然の共生の形として、世界的にも注目されています。

河和田自然に親しむ会は、「この自然環境を未来に残したい」という強い思いがきっかけで1992年に立ち上がり、豊かな里山を持つ河和田地区を地盤に活動を続けてきました。

『発見！』

定期的な自然観察会の実施など、会の活動が活発になってきた頃、大きな出来事がありました。現在、鯖江市の鳥としても制定され、

私たちにもなじみ深い『オシドリ』の発見です。

50円切手になるほど知られた鳥ですが、福井県でも準絶滅危惧種に指定されている貴重な生物のひとつです。もちろん、その棲息エリアの保護も、会の大きな目的に加わりました。

ただ、棲息していることが広く知れ渡ることで人が訪れるなど、逆に環境を破壊するリスクも出てきてしまいました。

その微妙な関係を考えながらも、やはり里山を共有する者同士として、地元の人々に保護活動への協力を訴える動きを始めることになりました。

最初は少しずつ、それでも、地域の草刈りを、オシドリの子育ての時期とずらしってもらうことなどが実現はじまりました。

『地元以外の目で 気づかされる価値』

そんな中、長年の活動実績をたたえる賞を受けることに。2001年5月の、財団法人(現在は公益財団法人)日本鳥類保護連盟会長感謝状受賞です。(会が自然観察の指導を行ってきた河和田小学校も、同じく『会長褒状』を受賞)

これがきっかけとなり、会の活動が鯖江市内から大きく全国へ広がりをみせていくことになりました。

その一つがNHKの番組「地球！ふしぎ大自然」への撮影協力。メインの取材対象は『オシドリ』でした。

オシドリは警戒心が強く、簡単に撮影は出来ません。しかし、長年の観察データを基に、撮影できるポイントや時間を取材クルーたちにアドバイスし、素晴らしい番組として全国放送されました。これは、地道な観察活動がなければできないことです。

その後も、会の協力のもと、テレビや新聞など、地域外の人たちから注目・発信されるたぐさんのコンテンツは、地元の人々が『河和田の自然』の貴重さを再確認する機会ともなりました。

空気が同じで、そこに住む人にとって、環境は「あたりまえ」のもの。会の活動は、それを新しい視点で見直すことで『自分たちと地域の価値を再発見する』ことの手助けをしたとも言えそうです。

最初は、少しずつしか地域を巻き込めなかった活動も、オシドリを含めた地域全体を保護する目的で、鯖江市環境保全区域の制定にまでこぎつけました。

『守るではなく、親しむ』

『河和田自然に親しむ会』には野鳥キノコ、植物など、様々な専門家が在



▲会長の谷口真栄氏と、
▲副会長の利恵子氏のご夫妻



「とにかく、地域の人たちの理解を得ながら進むことが大切です。

いろんな人間関係を大事にしながらか、お互いに良い形で利用し合うことも、意味のあることだと思います。」

そう語る谷口会長。事実、自然界では、皆が命を賭けて利用し合いながら、地域全体の生命力を維持しているとも言えます。

『里山』のような、人と自然の『共生』も、お互いが利用し合える、良い関係のひとつなのかもしれません。

〒916-1232 鯖江市寺中町21-3-2
TEL:0778-65-0308
http://www.mitene.or.jp/~masaki-t/
masaki@mitene.or.jp

基本
会員募集中!
ボランティア募集中!

- 代表者…谷口 真栄
- 活動開始…1992年4月
- 正会員数…50名(2013年12月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
鯖江市河和田地区とその周辺の自然観察などを通じ、豊かな自然環境を保全・継承することを目的としています。

これまでいろいろな活動も…

- ◆会の発足 (1992. 4)
- ◆定期自然観察会
春の自然観察会/夏鳥観察会/ホテル観察会/
殿上山サマーキャンプ/きのご観察会/冬鳥観察会
- ◆月例自然観察会の開催
※毎月第1日曜日 東部児童館付近
- ◆日常の自然観察と自然情報の交換
設置物の整備点検、巣箱、餌台、野鳥看板、保護区看板
- ◆自然観察会、学習会の指導
小学校、母親クラブ、農地水、町内会 など
- ◆生き物調査の協力、提案、リストの作製
鯖江市、福井県、中山間事業
「河和田の自然ガイドブック」
「河和田の生きものたち」
「みつけよう！河和田の田んぼまわりの生きものたち」
- ◆自然関係のサミット、講演会の開催
オシドリ全国サミット/江戸家小猫の自然談義/
佐久間文男の森の絵展、講演会
- ◆自然環境保全のための啓蒙活動
「ホテル物語」の紙芝居作製、公演/
「オシドリってどんな鳥」の紙芝居作製、公演
- ◆NHKテレビ番組への撮影協力
「地球！ふしぎ大自然」
「ダーウィンが来た！」
「ニッポンの里山 ふるさとの絶景に出会う旅」
- ◆他団体との自然保護での協力
人と自然共生宣言看板設置/
中山間授業の施設調査提案/
市保全区域の生きもの調査/
福井県「SATOYAMA国際会議2013inぶくい」に参加、協力

もうすぐ開園30周年!

西山動物園を支える市民パワー!!



レッサーパンダは世界的な稀少動物▽

▼平成27年に開園30周年を迎える西山動物園



ZOOっとNet
西山動物園友の会

まちづくり 環境 教育 文化

平成27年に開園30周年を迎える西山動物園。その西山動物園を陰に日向に支えているのが、「ZOOっとNet 西山動物園友の会」です。みなさんは、西山動物園の「こ」と、そしてレッサーパンダの「こ」と、どれくらい知っていますか?

『Tシャツ、また作りましょうよ!』

着ていると行く先々で「かわいいTシャツですね。どこで売っているんですか?」と、必ずと言っていいくらい声をかけられるこのTシャツは、ZOOっとNet 西山動物園友の会(以下、友の会)が作ったもの。残念ながらほぼ完売してしまいましたが、「また作りましょうよ。」「NPOもしっかりと収益をあげて、経済的に自立していかな」といけません。と中田さんはおっしゃいます。



▲今ではレア・アイテム? レッサーパンダTシャツ

『動物園が先か レッサーパンダが先か?』

「動物園が無いのに、レッサーパンダが来ちゃったんですよ。」昭和60年(1985年)4月の開園に先立つ昭和59年、鯖江市と中国の友好親善のシンボルとして、レッサーパンダを始めとする動物たちが贈られました。開園式には、動物たちが贈ってくれた北京動物園の園長も列席、澄み切った青空の下、「鯖江の子どもたちのために動物たちを贈ります。」と挨拶されました。その後、西山動物園開園15周年を機に、行政と市民の代表が話し合い、動物園を支える市民団体が必要ということ、友の会が起ち上げられました。

『市内と市外の温度差』

「朝日新聞で全国の動物園の特集がさ

れた時に、北海道の旭山動物園に次いで2番目に西山動物園が紹介されたんです。それは、レッサーパンダの繁殖もそうですが、職員さんはじめ、みんなの努力が全国的に認められているということなんだと思うんです。「小さい割には全国だけでなく世界から愛されている動物園だと思うんです。そのことを、鯖江をはじめ地元の人たちに、もっともって知って欲しいと思います。」

あまりに近いために、あることが当たり前になってしまっていて、鯖江の人たちの関心が薄くなってしまっているのでしょうか。



「開園30周年を、鯖江のみなで盛り上げたい」と中田さん

たことを多くの団体の方々や地域の人たちと語り合う場を作りたいですね。「鯖江全体を巻き込むお祭りにして、みんなが笑顔になる、そういうものにしていきたいですね。」あんまり楽しいので、インタビューがいつの間にか、企画会議のようになってしまい、話が尽きませんでした。

※ ※ ※

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内

TEL: 0778-54-7055
FAX: 0778-54-7058
http://zootto.net/
info@zootto.net

基本
デパート
正会員募集中!

代表者…寺岡 英男
活動開始…2002年4月21日
正会員数…50名(2013年12月現在)
賛助会員…なし

ボランティア募集中!

◎活動目的
西山動物園を支えながら、動物と人、人と人とのふれあいを育み、命の大切さを学びあうことを目的としています。

これまでいろいろな活動もしてきて

◆動物たちのごはんをとどげよう(2002~)

◆ホテル観察会(2002~)

◆プロジェクト・WILD、プロジェクトWET、PLT指導者養成(2002~)

◆パンダーランド観察会(2004~)

◆SABAEレッサーパンダサミット2010(2010/10)

◆国際レッサーパンダデー in 西山動物園(2013/09)

きみたちとつづいた25年。10月10日(日) 11月(木)

鯖江市西山動物園開園25周年記念 SABAE レッサーパンダ サミット2010



「動物園がある限り支えるのが友の会」と坪川さん

まもなく開園30周年を迎える西山動物園。それまでに、より多くの人のつながりを作っていきたいの思いがあります。

「グッズ販売や様々な企画など、友の会や行政だけでやるのではなく、より多くの人たちと一緒にいろんなことができると思うんです。まず、そういっ

今回の取材では、西山動物園の凄さを改めて感じさせられたのと同時に、まちづくりをしていくうえで大きな可能性を感じる事ができました。西山動物園の開園30周年に向けて、友の会単体で事業を行うのではなく、行政はもちろんのこと、他の多くのNPO団体、企業、個人など鯖江市中を巻き込んで、盛大に、楽しく、『鯖江ここにあり!』を世界中に発信していくことができれば、これからの市民活動の大きな起爆剤になっていくのではないのでしょうか。そんなことを思うと、なんだかワクワクしてきませんか。そう思った方は、ぜひ一緒に開園30周年事業を盛り上げていきましょう!

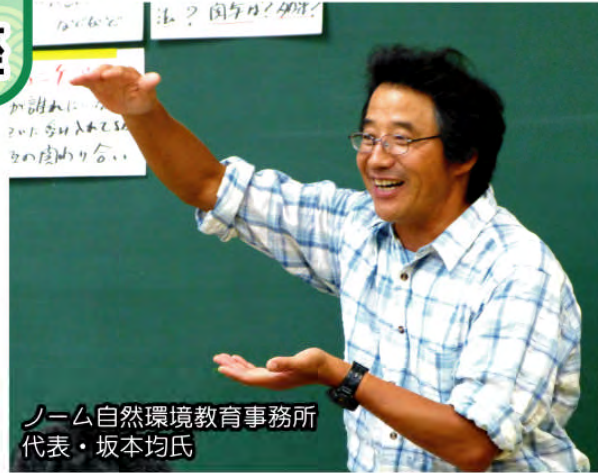


▲にやー (...とは鳴きません 念のため)



▲現在も販売中の缶バッジ ※お問い合わせはNPOサポートまで

アイスブレイク・ゲームで雰囲気作り。人差し指だけで、マーカーを他のペアと交換中。



ノーム自然環境教育事務所 代表・坂本均氏

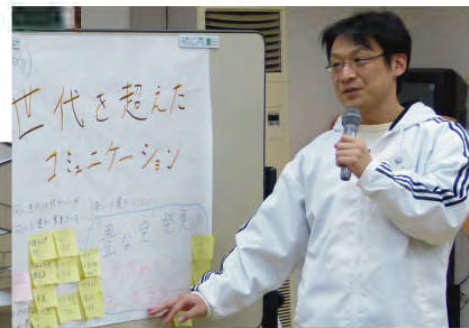
『地域の魅力を見つめ直す』

9月5日(木)の2回目からは、4回連続のワークショップの始まりです。講師を務めたのは『ノーム自然環境教育事務所』代表の坂本均氏。快活な語り口と、温かな人柄の感じられる進行で、最初はいくらか緊張気味だった参加者たちも、少しずつ和らいだ様子になっていきました。まず始まりは、自分たちの生活している『豊』という地域の宝を再発見すること。歴史、自然、文化など、参加者それぞれの視点で、たくさん言葉が付箋に書かれ、グループごとの模造紙に貼られていきます。それは、一人一人が感じている地域への『誇り』『愛』『夢』が、結晶化したものでもありました。



▲会話と表情で活発なコミュニケーション。出てくるアイデアにも磨きがかかります！

「豊郷土かるた」を資料として持ってきた参加者も。



『宝は”人”と”繋がり”』
11月20日(水)、講座の締めくくりとなる成果発表会に集まった参加者の表情には、意欲と達成感がみなぎっていました。もしかすると、最初はそう乗り気ではなかった人もいたかもしれません。また、何回も公民館に足を運ぶことを負担だと感じた人もいたでしょう。でも、自分たちで意見を出し合い、グループごとにまとめ上げた『まちづくりのアイデア』には、それぞれの思いがしっかりと染み込んでいます。グループごとの熱のこもった発表が、何よりもそれを物語っていました。

『参加者全員が、同じ地域で生活し繋がっているからこそ、これだけの人が何回もの講座を、深い一体感を持って続けてこれたのかもしれない。』
：それが、講座全てを通して感じた正直な印象でした。
ある意味『地域』そのものが、今回の講座の底力だったのでしょ。初めて、ひとつの地区全体を巻き込んで開催された『まちづくり応援団養成講座』は、参加者ひとりひとりのスキルアップ以上に、地域のコミュニケーション力やネットワークそのものを育むための、ひとつのきっかけになったに違いありません。

◀「成果発表会」で各々の“まちづくりの企画”をお披露目。これが地域の“応援団”として、最初の成果でもあります。

豊の宝を

見つけよう!!

豊地区 市民まちづくり応援団養成講座

主催：鯖江市 企画・運営：(特活)さばえNPOサポート 提案型市民主役事業
日時：平成25年8月8日(木)～(※全6回) 場所：豊公民館



▲基調講演の会場。地区内から38名もの皆さんが参加しました。



NPO法人 美山まちづくりNPO 理事長・清水正一氏

鯖江市では2012年から「市民まちづくり応援団養成講座」を開催しています。地域活性化の核となる人材を育てたいと始まったこの事業、今年は地区単位で、より市民に密着した講座も企画されました。そのスタートを切ったのが「豊地区」です。

『楽しくなければ まちづくりじゃない』

豊地区での講座は全6回。8月8日(木)の初日は、基調講演として、福井市美山町にあるNPO法人『美山まちづくりNPO』理事長の清水正一氏を講師に迎え、まちづくり活動のツボを語っていただきました。タイトルは『楽しくなければまちづくりじゃない』。文字通り、まちづくりで大切なのは、関わるメンバーが『楽しく』できるかどうか。そして、誰かにやらされているのではなく『自分たちで考えて』できるかどうか。…その視点で、いくつかの事例が紹介されます。お酒が好きだから『地酒の会』を立ち上げて、酒蔵さんにオリジナルの日本酒を作ってもらった事業。全国的にも知られるようになったシルバー世代による『劇団ババーズ』の話など、様々な事業がネットワークすることで、それが地域の資源となっていくのです。「とにかく、自分たちに負担がかかりすぎないことが大切です。」その言葉には説得力がありました。



今年も鯖江市内のあるお店で開かれた「編集後記座談会」。今年のテーマは、「愛」(?)。「OSANPO」に対する熱い愛(笑)について語り合いました。果たして、成長したメンバーの姿を感じていただけるでしょうか? ぜひお楽しみください。

☆新メンバー加入

- A 今回と『2歩目』までの取材とで違ったことはありませんか?
- C メンバーが増えてきてくれたおかげで、広報委員会の層が厚くなってきましたよね。それと合わせて経験も増えてきて、いい感じになってきたんじゃないですか?
- A 今回の原稿を読んだけど、まあまあ、いい感じかな。(笑)
- E 出来ていたかどうかは怪しいけど、自分が原稿担当なんだって、わかって取材に行ったので、「こういうことを聞いておこう」とか考えながら、取材したつもり。
- C これって、取材経験を積んできたからかな?(笑)
- A 僕の取材は、なにも用意していかなかったな...(笑)
- C 取材というより、駄弁ってたって感じだけど面白い話をたくさんしたし、今後のことかも話した。団体さんって、お話を聞いてみて初めてわかる部分も大きいよね。さばえNPOサポート的には、それでは本当はよろしくないんだけど...(汗)

☆NPOセンターを利用する?

- A 今年も、新しいメンバーが加入したけど、どうして広報委員会に入ろうと思ったの?
- F 誘ってもらったから!
- E 私がSNSに『OSANPO』を投稿したら「それ見てみたいな」って言ってくれたので、「まずは原稿とか書くのではなくて、仲間を作りにおいでよ!」って感じで。(笑)
- E ちなみに私、今学生やっているんで、自習の場所として、センターには大変お世話になってます。そう言えば、アールトンクラブさんが、活動は、センターの会議室ではなく、オープンな『交流サロン』ですることの意味があるって言っていましたよ!
- C わざと聞こえるように活動して、勉強している学生たちに、「ここってなんだろう?」っていう意識を持ってもらいたいから、あえてサロンなんだって!
- C 連合青年団さんが『SABA-KAN.TV』という動画を配信していて:ベタなつくりだけど、ほのぼのとしていて、こういう形の広報というかPRのひとつなんだ

☆まとめていただけませんか?

- A 自分自身がどう受け止めるかって考えれば、全てがバラ色じゃ!?(世界は『愛』で溢れてる!❤️(両手を挙げて天を仰ぐ☆)
- B うちがやっている『中間支援』って難しいものだよ。自分も迷った時期があったけど、ある意味、やめても誰も困らない。(笑)それでも現状では、うちみたいな団体がいろんな情報を伝えていくことは重要だと思っています。『広報』がなくては、中間支援は

- C 基本、自分たちがやりたいと思っでやっているんであれば、それを楽しいと思っでついでくる人もいれば、楽しくないと思っで離れてしまう人もいます。
- E でも、それはしょうがないよね。自分がガンガンもっでいっていいのかな?
- C それとも、みんなのやりたいことを聞きながら、やっでいったほうがいいのかな?
- C お酒の席とかコミュニケーションをとるなかで、いろいろとりサーチできるんじゃないの?
- E コミュニケーションはあるけど、やりたいことがバラバラ。(笑)
- C 順番にやっでみれば?
- C ただ、みんながみんな満足するのって普通は無理!
- G 今回はこっちの子達が面白いと思っで、次回はこっちの子:ってやっでいけば、『会』自体が魅力になることで人は集まるかも。
- G ただ、なんの集まりだという目的は、大まかに持っでいないとね:最初はちっぽけな思っでたっけど、今は、もっで広げて行きたい!!組織は成長する(笑)
- C NPOセンターが出来たときもそんな感じですよ。

☆『4歩目』に向けて!

- E 私は団体さんとの出会いを大事にします!
- C 『OSANPO』より『サポ通』(さばえNPOサポートの広報紙)のエッセイのほうが大変。(泣)
- G エッセイは難しいよね。
- C でも、自分の思っでを公表する場があるのはすごいことだよ。サポ通もチャンス!
- A 編集後記執筆もチャンス!
- H この間、あるセミナーで紹介された『7つの習慣』て本を読んだ。一番は、世の中起きるすべてのことは自分が原因で考え方。全ては自分の受け取り方!



広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作ませんか? 人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。待ってまーす!

【ご連絡先】
 ■さばえNPOサポート事務局
 TEL: 0778 (54) 7055
 Eメール: info@sabae-npo.org



- A 取材で行った『鯖艦フェスティバル』の脱出ゲームはすごく面白かった。作った団員さん、うちの広報に欲しいなあ。(笑)
- C 現在の青年団さんって、「青年団を復活させよう!」って自分たちで声をかけて頑張っでここまできたけど、若いから他の団体さんから「お手伝いして」ってお誘いも多いらしくて:逆に自分たち独自の活動をもっとしたそうにも見えなよね。
- G そう。気持ちはあるんだけど、なかなか、そういう『場』がね:やっば『NPOまつり』みたいなのが必要かな?(笑)
- D うちが:認定NPO:取ったら、なにかしないかね!
- E ところで、実は私:ある団体を作っただけです。
- G きっかけは、センターの『ミニサロン』を借りたかっただけなんですけどね。(笑)
- E でもそれだけだと「もったいないな」と思っでいたら、「こんなこと勉強しましよよ!」「こういう講演会でませんか?」と誘っでくれる人や、自分たちでテーマを決めて月1回集まろうとか、いろいろと話が出てきてきているんだけど、どうしていいのかわからないんです。(困)
- A みんな、どうやって団体を運営しているんだろう?
- A ありえない!...ただ、まだまだ足りていないのも確かだと思っで。とにかく、日々勉強しながら、これからも『愛』を持っで広報活動を持っでいきましょ!!
- C :...というところで、『愛の座談会』はここで終了させていただきます。(笑)まだまだ、たくさん団体の皆さんがいらっしゃいます。『4歩目』に向けて、どんどん取材活動を行います。もちろん、団体さんからの取材申し込みも大歓迎!
- E では、また次号でお会いいたしましょ!!

B 『3歩目』で工夫したことは?

H 全ては自分の受け取り方!



『OSANPO』では、これからも鯖江の
市民活動団体さんを、どんどん掲載させ
ていただきたいと思います。

「ぜひ、私たちのことも取材して！」と
いう団体の皆さんは、さばえNPOサポ
ートまでご一報下さい。

『OSANPO～3歩目～』

- 2014年1月 初版発行
- 発行人：広報特別委員会
- 発行所：特定非営利活動法人
さばえNPOサポート
福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
E-mail: info@sabae-npo.org
- <http://sabae-npo.org/>

